

令和3年7月（2021年）No.667

大阪アマ連・一挙3クラブが退会

OMCの役割一層高まる

会長 合原一夫

今まで7クラブで運営してきた大阪アマチュア映像連盟だが、このほど、映像北大阪（堀皓二会長）がクラブそのものを解散したのを始め、高槻ビデオクラブ（角南和美代表）が会員減少で連盟会費の納入もままならなくなった、という理由で、更にビデオくんクラブ大阪が会長の鶴飼喜次さんの退会をきっかけに、リーダー不在で、大阪アマチュア映像祭への出品もおぼつかなくなったのと、運営費用の面で行き詰まり、結局のところ大阪アマ連を脱会するとの意向が示され、遂に3クラブの連盟からの脱会が決定的となった。

平成9年大阪市内の8クラブ（映像集団・地下街、大阪ビデオクラブ、大阪ムービーサークル、関西シネクラブ、住吉区ビデオクラブ、天六ビデオクラブ、平野映像塾、フジビデオサークル大阪）だけで発足し、関西映像界最大イベントとして、大阪中央図書館との共催で「大阪アマチュア映像祭」を毎年開催してきた。その間、クラブが次々と脱落し、第3回目の平成11年にはクラブを大阪府下に拡げて活動を続け、昨年秋の第24回の映像祭まで継続してきた。

今年の秋には第25回目となるが、残された4クラブ（大阪ムービーサークル、寝屋川市映像協会、映像岸和田、ビデオサークル堺）で映像祭を盛り上げていかななくてはならない。我が大阪ムービーサークルの役割が一層重くなった。せっかく続いてきた映像祭を潰すわけにはいかない。OMC会員諸氏のご協力を切に望みたい。



7月例会のお知らせ

- 第2例会；第3木曜日 15日 13時より…課題コン後一般作品も上映
- 通常例会；第4土曜日 24日 18時より…楽しいひと時を過ごしましょう

課題コン「窓」できましたか

7月第2例会で、課題コンテスト「窓」の制作状況は如何ですか。「窓」という字が入っていたら、どんな内容の作品でも構いません。「同窓会」等の記録素材は有りませんか。「牛窓」への旅の記録は撮っていませんか、外国の教会でステンドグラス窓の絵に見とれた思い出の映像は有りませんか。飛行機の窓から下界を眺めた思い出の映像をお持ちではないですか。

とにかく会員の皆さん、多くの作品を期待しております。

会員諸氏のワクチン接種すすむ

6月例会で出席された会員さんに、ワクチン接種の状況を聞いたところ、3割位の人が2回目の接種終了、まだ1回だけという人4割位、残り3割の方はまだだが7月中には接種が予定されているとの回答を得ました。どうやら新型コロナウイルス対策の切り札ともいえるワクチン注射は、7月中には終え、8月からは気分的にも安心して仲間と会話も出来、喫茶店や居酒屋にも行けそうで安心いたしました。

早く普通の日常生活に戻りたいものです。

OMCフェスティバル10月3日(日)

恒例のOMCフェスティバルは今年61回目を迎えました。まだこの10月初めには、コロナ禍が完全に治まっていなくて、入場者の制限などを始め、マスク着用、手指消毒、体温測定等昨年同様に配慮しなければならないと覚悟していますが、コロナ禍の心配を気にしながらもご来場いただいた観客の皆様には、来てよかった、感動した、楽しかったと、喜んでいただけるような内容の発表映写会にしたいものです。

コロナ禍の中、撮影や取材が思うようにいかなかったこの2年間では、自信作を制作するのは難しかったのでは無いかと思います。反面、コロナ禍ならではの作品を制作された方、計画中の人もいないのではないかと期待もされますが、こればかりは無理に言えません。

ですから今回は新作に限らず、往年の自信作があればそれを出品されてもよいと思います。勿論、過去のOMC映像発表会で出していないことが条件ですが。8月初めにはプログラム編成をしなければ間に合いませんので、7月例会(第2例会か通常例会)に作品をお持ち願えればと思います。

6月通常例会レポート

6月通常例会は26日(土)難波市民学習センターにて開催。緊急事態宣言が解けたものの、まだ「まん延防止等重点措置」の状態が続いている中で、の例会となったが3ヶ月ぶりの例会とあって懐かしい?面々と顔を合わせ、会話を交わし、大きなスクリーンで作品がみられる喜びは格別の物があつた。やはり仲間と直接会っておしゃべりができるのは楽しい。今月は合原会長司会のもと、8本の作品が上映された。

- 運営担当; 司会・合原、書記・紙本、
映写・坪井、岡本、メモリー記録中川、受付兼照明・宮崎、森下の各氏
- 出席者 ; 江村、岡本、紙本、合原、進藤、高瀬、中川、坪井、
宮崎、森下、山本の11氏
- 上映作品(書記は紙本氏)

1、室生龍神伝説 B D

紙本 勝 10分40秒

<作者コメント> 奈良県の室生の地には、海神社・室生寺・龍鎮神社・龍穴神社があります。何れも昔から龍神伝説が



語り継がれ、神秘的な雰囲気を感じられる聖地で、パワースポットでもあるのが強く印象に残りました。

2、素顔のミャンマー BD

合原一夫 13分00秒

<作者コメント> ミャンマーは、元ビルマと称し、比較的親日的な国だが現在、軍のクーデターで民衆との間にトラブルが起こっている。私が1998年(平成10年)ツアーでミャンマーを訪れた時も、アウンサー・スーチーさんを家に閉じ込め軍政下の国であった。しかし、実際に現地に行ってみると民衆の顔は明るく、活気に満ちていた。女たちがよく働いており、男たちの姿が少なかった。仏教の国ミャンマー、無数のパタゴや寺院があり、私にとっては魅力あふれた国であった。
<書記コメント> 軍へのクーデター抗議活動で70人以上が犠牲になっている。それでも穏やかで美しい国とかで、その様子が存分に描かれている。読売の編集手帳によると、鎌倉大仏が人気らしく、軍では世界最大の仏像の建設を始めたが、弾圧と平和の祈りはありえないという。映像でみる様な平穏さを願う。



3、やなせ森林鉄道 BD

江村一郎 9分00秒

<作者コメント> 2020年8月高知県安芸郡馬路村の魚梁瀬森林鉄道跡に行った。魚梁瀬の歴史は古く、豊臣秀吉が長宗我部元親に命じて、仏光寺の大仏殿に使う木材を献上させた記録があるという。明治44年(1911)に田野=馬路間の軌道が開通します。当時はトロッコに木材を積み、勾配を利用して海岸まで運び、空になったトロッコを犬が引いて山に戻っていました。



機関車による木材の搬出が始まったのは、大正10年(1921)のこと。昭和32年、魚梁瀬ダム建設に伴い、総延長250kmの森林鉄道は廃止された。

<書記コメント> 高知県とはいえ、ちょっと行けない所ようですが、かつて林業が華やかな頃、日本三大美林の魚梁瀬スギの搬出を目的に建設された鉄道の様で、廃線跡に残るトンネル・橋梁等の遺跡を長距離にわたって取材、木材の搬出の風景がよく描かれ、特に町中を住民と共に生きた鉄道と生活の描写は圧巻で、全体を通じて廃線探訪の醍醐味を表現されているのに感銘しました。

4、高山右近の郷 棚田風景 BD

進藤信男 12分50秒

<作者コメント> コロナ禍で遠征が出来ない期間が長くなり、近場にテーマを求めた。取材に行ったとき、地元農家の方との対面会話が出来た。田園の話はマスクなしで、サラリーマンを終えた経歴があり共通に親近感を覚えることが出来た。



ここでは、高山右近の人物像について云々することは役場を中心にした活動が続いているものの、日々の生活では少ないようだ。大阪府にあって東北仙台と同じ気候のところ。大阪市内へも比較的近い。北摂の山間地で小さな盆地の生活。いわゆる限界生活地域に分類されるのだが、都心にも近い為なのかあまり悲壮感のようなものはない。子供たちとは生活が分かれているが、すぐ近くにいるとの安心感があるのか、むしろ今の給与所得者と自分の現役時代と比較して社会構造の変化や生活様式の変化に対して疑問を感じ、どう生きていく事が必要なのかを問い続けているように感じた。地域の圃場整備事業の進め方など、祖先が築き上げてきた棚田文化の伝統を何とか残したい。簡単に放棄したくない。言葉の端々にこんな思いを感じた。

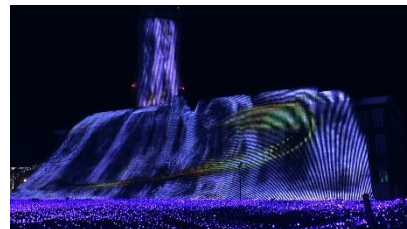
<書記コメント> 祖先が営々として築き上げた棚田は当然広さがなくても、何か哀愁めいたものを感じなくもないが、それでいて、これを守っていかねばと云う使命感と誇りの様なものが見受けられる。私も高山地区には3度ばかり行った事があって光明寺から望むと段状に重なって見える棚田の様子など、詳細に紹介されているのに感心しました。ビュースポットおおさかに選ばれた日本の原風景でした。

5、ハウステンボス「光の国」 BD

中川良三 8分54秒

<作者コメント> 2016年3月、長崎県ハウステンボスを訪れたときの記録。昼から日が落ちる日没まで園内を散策し楽しむことができました。昼の風景もオランダらしくていいのですが、あえてハウステンボスが復活するきっかけとなったイルミネーション「光の国」を、今話題の動画ソフト「ダビンチリゾブル無料版」で編集してみました。

<書記コメント> 2010年頃から始められたイルミネーションのイベントは「光の国」と呼ばれ夜の一時を楽しませているようです。「光の瀧」「光と噴水の運河」などは特に人気がある様で、一見に値するとか、拝見しても、昼間の園内とは又、違って趣を感じさせる映像でした。



6、北野天満宮 青もみじの頃 BD

高瀬辰雄 8分00秒

<作者コメント> 北野天満宮では6月に入ると、無病息災を祈願する茅の輪が設置され七夕祭りの飾りつけも始まっていました。そんな中、御土居の青もみじも公開され、境内では梅の実が成り、摘み取りが行われていました。梅の実は「大福梅」という名で年末に参拝者に授受されます。茅の輪くぐりの夏越の払い、七夕、年越しの準備と足早に移ろい行く季節を、今が盛りだの青もみじを中心に描写してみました。

<書記コメント> 北野天満宮の御土居の青もみじを始めとした初夏の風物詩。

青もみじ苑が公開され、空を埋め尽くす青葉は秋のもみじとは又、趣が違い、爽快で美しく躍動感を覚えさせてくれる様です。特に朱色の鶯橋と青もみじの調和が素晴らしい。

茅の輪くぐり、梅の収穫などこの季節ならではの映像を拝見出来て何よりでした。



7、富士山 BD

山本正夢 7分40秒

<作者コメント> コロナ禍で家に居る時間が多くなり、急に旅行がしたくなり、富士山方面へ2泊3日の車中泊旅行をしました。

<書記コメント> 富士五湖周遊他の旅に出られたようです。富士山は何時見ても、何所から見ても、やはり日本一の山、素晴らしい。雪をかぶった姿が次々、子抱え富士・逆さ富士の精進湖や氷穴などコロナを忘れての旅になった様でした。

